

新しい生活様式
一人ひとりができる基本的な感染対策

- 2m空ける
- 遊びは屋外>屋内
- 外出時にマスク着用
- 会話時 真正面は×
- 帰宅時に必ず手洗い

日常生活各場面(出) / 働き方の新しい形(帰)

中野区HPより / 厚生労働省HPより

手洗い
新型コロナウイルスを食む感染対策の基本は、「手洗い」や「マスクの着用を含む確エチケット」です。

マスクについてのお願い
マスクは買い占めなくても大丈夫
使い捨てマスクがないときは代用品を使おう
こまめな手洗いなどの基本も大事

厚生労働省HPより

小林 ぜんいち

- 議会役職等
 - 厚生委員会 委員長
 - 情報政策等調査特別委員会 委員
 - 民生委員推薦会 委員
- 経歴
 - (株) 宮本忠長建築設計事務所
 - (有) TAF 設計事務所
 - 住宅・教育・医療・福祉・文化・宿泊・耐震等設計監理、専門学校等 講師など
- 所属団体等
 - (社) 日本建築学会正会員
 - (社) 東京建築士会正会員
 - 福祉住環境コーディネーター協会会員
 - マンションリフォームマネージャー
 - 日本防災士会会員
 - 早稲田大学稲門建築会会員
 - 中野稲門会会員
 - 中野区長野野会副会長
 - 上町町会会長

Home Page / Facebook / HOMEPAGE ホームページ
小林ぜんいちオフィシャルWEBサイト
ホームページ <http://kobayashizenichi.com/>
Facebook 「小林ぜんいち」で検索
Twitter 「小林ぜんいち」又は「@koba_zen」で検索

中野区議会 公明党議員団 中野区中野 4-8-1 TEL.03-3228-8875

小林ぜんいち NEWS

Zenichi Kobayashi



ご挨拶

私は、中野区議会令和3年第3回定例会において、中野区政の課題に対する質疑と、COVID-19緊急対策としてワクチン接種「中野モデル」の維持推進と支援、そして区内に新型コロナウイルス感染患者に対し「酸素ステーション」や「抗体カクテル療法」の拠点「コロナ治療ステーション」の設立、保健所業務の負担軽減のため入院調整が必要な患者の判別を行う「在宅療養者管理センター」の開設が必要であると、中野区医師会の先生方に取材もさせて頂き提案しました。しかし、区長からは区民の命と財産を守るための決意とその実行についての答弁を聞くことはできませんでした。昨年春以来、心血を注ぎ込んできましたコロナ対策のフェーズは、「PCR検査」中心の第1段階から、「ワクチン接種」の第2段階、そして「コロナ治療ステーション」の設置と身近な場所でのきめ細やかな治療の第3段階となっています。今後も命を守ることを最優先に力強く活動をしてまいります。

公明党
第35号
2021年11月発行
中野区公明党議員団



令和3年第3回定例会 一般質問

一般質問項目

1. 中野区の区政課題について
 - 1) 全庁挙げた新型コロナウイルス感染症対応について
 - 2) テレワークシステム導入について
 - 3) 令和2年度決算総括と令和4年度、令和5年度以降の予算編成について
2. 新型コロナウイルス感染症対策における医療的な取り組みについて
 - 1) 新型コロナウイルス感染症ワクチン接種「中野モデル」の今後の取り組みについて
 - 2) 中野区内へ「コロナ治療ステーション」の設置を!
3. 地域包括ケア体制の構築について
 - 1) 孤独の防止、地域包括ケア体制の構築について
 - 2) 在宅療養の充実をはかれ
 - 3) 町会で行う掲示板の設置費用助成について
4. 中野駅新北口駅前エリアの再整備について
 - ◆ 中野サンプラザ所有会社「株式会社まちづくり中野21」に 関わって

小林ぜんいち 令和3年(2021年) 第3回定例会 一般質問から抜粋

1. 中野区の区政課題について

全庁挙げた新型コロナウイルス感染症対応について

小林 昨年6月「想定外の感染症対策を含めた、区の組織全体に関わる危機管理について、今回の全庁的な行政対応に関する検証を行う必要がある。また、第2波に向けて「外部から専門家を入れた客観的かつ専門的な検証を行うべき。」と、検証と次への業務改善を図るよう提案をしていた。そこで全庁的体制強化と、大胆に不要不急な事業の一旦停止、優先順位の高い業務に職員を手厚く配置するよう、新型コロナウイルス感染症を経験し、中野区政の中野区事業継続計画・BCPを、災害発生時から時間を追ってフェーズに合わせた仕様に改定してはどうか。

区長 今後の感染症に関する検証やBCPの見直し、改定については国や都の政策・同行や保健所業務との関連を踏まえ、区民生活を維持するために必要不可欠な非常時優先業務の継続の観点から、迅速かつ適切に進めていきたい。

令和2年度決算総括と令和4年度、令和5年度以降の予算編成について

小林 区財政は、分かり易く言えば預金残高より借金が增大、債務負担行為や償還金が増大する構造となっている。公債費は、新区役所庁舎、平和の森小学校移転用地など、今後新たに行われる大きな起債が足されると考える。今後、令和6年度、令和7年度、10後の令和12年度の償還額と、公債費はいくらか、公債費負担比率の推移はどうなるのか。

区長 公債費の推計は、令和6年度49億円、令和7年度212億円、令和12年度59億円。公債費負担比率の推移は、令和6年度6.8%、令和7年度26.4%、令和12年度6.6%となる。

小林 「令和3年度 当初予算(案)の概要」の、財政運営の考え方に示された財政調整基金の積立と繰入計画を見ると、3年後の令和6年度の財政調整基金は77億円。経常経費である退職手当分を仮に10億円とすると、施設改修分は約65億円になり、年度間調整分は0円となる。経常経費を0円としても残高は77億円で、年度間調整分を目途150億円としてきたこれまでの考えが大きく崩れ、区民サービスへの影響が大きくなると考える。内訳をどう考えているのか。

区長 厳しい財政状況が続く中、必要な区民サービスに対しては財源を投入していく必要があるから、区民の命と健康を守るため施策に最優先で取り組むための歳入を見込み、基金を活用したい。

小林 新区役所権利変換までの費用などをどのように賄うのか、財源不足をどのように認識しているのか伺う。

区長 一時的には多額の経費が発生するため、権利変換までの経費は、起債および基金の活用を考える。

小林 令和3年度に一般財源の基準額を687億円とし、245億円の積み立てを行い、財政調整基金を49億円繰り入れ、差し引き24億円の実質基金を取り崩し、予算編成を行った。令和4年度の「基準となる一般財源規模」は、更に大きくなると考える。令和4年度の基金の活用、財政について区の認識を伺う。

区長 必要な区民サービスを実施するため、適時適切な基金活用を図る。
2. 新型コロナウイルス感染症対策における医療的な取り組みについて

新型コロナウイルス感染症ワクチン接種「中野モデル」の今後の取り組みについて

小林 ワクチン接種に必要な供給量を確保するとともに、早期に接種を受けたという区民の要望に応える必要がある。どのようにワクチン接種を推進していくのか。また、個別接種にご尽力を頂いた医師会の先生方が、「中野モデル」体制を崩さず、維持するために必要な支援を行ってはどうか伺う。

区長 国や都に対してワクチンの供給を求め、個別医療機関の接種を推進していく。また、接種体制の整備を進めていきたい。

中野区内へ「コロナ治療ステーション」の設置を!

小林 保健所職員の皆さんが、一年半を超える長きに渡り終わりの見えない中で、昼夜をいとわず任に当たって下さっているご努力に心より感謝申し上げます。最大級の災害に対し、自宅待機者へ保健所による疫学調査等業務も滞り、逼迫し、その状況は極めて危機的。体内の血中酸素飽和度を測定するパルスオキシメーターは、全ての在宅療養者に貸し出すべき。治療に、軽症者へは診断初期に重症化予防を目的とした中和抗体薬、ロソブリンなどの投与による抗体カクテル療法の実施、中等症患者へは酸素投与などを行う拠点施設が求められている。現状対策と6波に備え、国や都と連携し、区内に新型コロナウイルス感染患者に対して「酸素ステーション」や「抗体カクテル療法」の拠点として中野版「コロナ治療ステーション」をすくなくとも設立してはどうか伺う。

区長 患者の事態の確認について、24時間対応が必要と考えられ、医療従事者を確保する体制を整備するには様々な課題がある。

小林 保健所の負担軽減のために、患者の選定や、入院調整が必要な患者の判別を行う「在宅療養者管理センター」の開設も必要。柔軟な対応で至急検討してはどうか伺う。

区長 情報収集に努め保健所の負担軽減対策について検討を行う。
3. 地域包括ケア体制の構築について

孤独の防止、地域包括ケア体制の構築について

小林 コロナ禍の現在、外出自粛などにより、育児ママ、子育て中の方、若者、単身の高齢者などが孤立し、「孤独」な方が増加している。孤立した孤独な高齢者に、地域での見守り支援活動、地域包括ケアシステムによる支援は重要で、孤独な方ほど友人知人との、地域との、社会との「つながり」と「居場所」を求めている。孤独の解消は、今後の大きな課題と考えるが、区は課題解消に向けてどのように取り組みをしていくのか。コロナ禍、条例化された地域での「見守り支援活動」を、今後どうするのかが伺う。

区長 状態の把握や状況に応じた支援が必要と認識している。より効果的なアプローチを行い、交流や活動の場、就労など必要な支援につなげていく。ICTを活用した見守り支援活動の仕組みづくりを進めていきたい。

小林 リンクワーカー、コミュニティソーシャルワーカーの役割を、どの様に考えているのか。

区長 ネットワークづくりに取り組む役割は重要である。

在宅療養の充実をはかれ

小林 2025年、2040年問題と言われており、将来は更に高齢者が増え、在宅で医療・介護の支援を受けながら生活する区民が増えてくると思う。そのような事態に備え、区は安心して住み慣れた地域での生活ができるよう支援体制を早急に構築する必要がある。コロナ禍の状況は、超高齢社会への備え、地域包括ケアシステムの構築という観点から現状に対する区の課題認識と今後の取り組みについて伺う。

区長 退院後の在宅生活への移行期における体制や病院と診療所、介護事業所間での情報共有などについて充実・強化を図る必要があると認識している。病院と病院、病院と診療所との連携のあり方や、地域医療支援病院との連携なども視野に入れて、医療・介護関係者等との検討を進めていきたい。

小林 アフターコロナの観点に立って、アクションプランには、在宅医療・介護の取り組みを充実させるべき、どうか。

区長 高齢者だけでなく障がい児等の在宅療養・介護の取り組みの充実策についても、中野区地域包括ケア推進会議在宅療養部会における議論も含め盛り込んでいきたい。

